

文久三年十二月二十一日より文久三年十二月廿四日まで

P8311067 right

の儀申談す

廿二日午 雪意午下漸晴

朝第九時出立十一時半、梅莊へ小憩第二時半接遇所へ立よる茶を喫す、落馬して同心融平に
手数

を懸く、第三時半帰着、柳亭来り、此一泊せしめにて候段、福分け同人 並須崎伯母外とも

渡遣す旨、伊藤

伯母来り同断品遣せし旨、牛姑昨帰る時服残等を以、(泊宿)労を謝せし旨、尤同人不快に付、

医薬□を

与へ稍々(やや)平然せしめ、細谷(秀)上京に付、残品(一円)遣せし旨、広沢(悦)番代相済の吹聴
として来紅梅

三分一糕を携へし旨、且婚儀の吹聴申聞し旨、和田(重)より新鑄短刀贈り越□、過日約ありし
品

なり、松前豆州より面晤いたし度旨の文通京極能登より相届く、太郎児痘瘡結頼の賀として
赤飯十六家へ配達【文字判読不可】医小川等へは肴等添え遣し旨、去る十八日年糕を春(つ)く

八寸取壺、

五寸取五、三寸取壺、小人、式升取壺、(鎗床□也)、七寸取(長)のし七枚(用人)へ六寸取のし五枚

(給人)へ五合取□

P8311067 left

のし二枚づつ(中小姓五人)へ五合取(壺づつ)のし壺づつ(中番、別当小使三人)へ五合取壺□

六寸取壺のし壺づつ(門番大部屋)

九人へ外になまこ壺【文字判読不可】入本医道玄来る

廿三日未 晴

山本(長)来る、姑の病平然に□ける趣、出 殿、亜ミニストル引合の趣河内守殿へ真三郎共
に建白し為

取替の約書本書片山与八郎を以て進達す、永持来り残品(白羽二重)並旧北堂へ二斗遣品

(五婢へ一朱づつ)二方と一□有し等を

贈られ酒肴を設し旨、柳亭方より出途頃合聞合せに来りし旨、長蔵より同断伴鋏次郎
さし越す

廿四日申 晴

加賀中納言殿使者太田□時□尋問として銀五枚生緒三反鋏一籠持参面す、出 殿、明日

四時被為 召御触切紙周防守殿御渡し、明日五半時御供揃□、御参詣被仰出、且四時

御留寺、御法

令被仰出し旨、藤山(馬)寒見舞として来りし旨、昨同様鋏次郎来り夕齋帰る、黄窪てつ歳

()内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。